

ウルルンド ソンニンボン クムジョンサン  
韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(2)  
(2015年8月29～9月3日)

関根 茂子

私が山頂の山名石碑をスケッチをしていると、さっきの夫婦連れが現れて覗きこむ。昨日描いた道洞の遊歩道のページを見せてあげる。ついでに、5月の太白山でのスケッチも見せる。言葉は通じなくても絵なら分かってもらえるのだ。

下山路は北面の羅里盆地<sup>ナリ</sup>へ下ってバスで戻るとも考えられるが、島を一周する車道はまだ完成していない。バス時刻も不明だ。西回りの海岸道路をタクシーで走ると時間もお金もかかるので諦める。

元の道に戻る途中14:09から道洞へ下りる道に入り、大原寺<sup>テウォンサ</sup>へ向かう。少し先に蓬萊の滝へという道標はあった(14:25)が、道はヤブのなかに消えていた。廃道になったのかな。

14:53、舗装路に出た。正面にケーブルが架かった岩山(軍事施設?)を望み、急な坂道を下ると、見晴らしの良いところから道洞の港が箱庭のように見えた。ここで、スケッチタイム10分。この下でマーガレットのような花を咲かせている畑(除虫菊畑?)を目にする。15:37、お寺を拝観してから30分くらい下って民宿に戻り着く。

今日は朝7時から4時まで行動したので汗まみれだ。宿にはトイレ共用のシャワーが一つしかない。これは堪らんとUさんがサウナ(沐浴)を探してきてくれ、連れだっていく。入ってみれば日本の銭湯と同じだった。(女性のみタオル付きで@6000₩)ひと風呂浴びてさっぱりした体でその



ヒラメ、イカ、ホヤ、サザエの刺身盛り合わせ

まま夕食へ。今夜も生簀のイカとヒラメを指差して、刺身三昧だった(計10万₩)。

◆9月1日 島の観光のあと鬱陵島→船→浦項→バス→老圃(釜山)→地下鉄→久瑞(泊)

午前中は島内散策…と思ったが、今にも降りだしそうな天気だ。宿の女将さんは独島展望台<sup>ドクト</sup>観光を勧める。そうか、昨日、軍事施設と思ったケーブルは展望台行きのものだったのだ。

宿に荷を預け、傘を持って初日とは反対側の海岸散策路を少しだけ歩いてスケッチに専念していると雨が降り出した。あわてて船のターミナルに戻り雨宿りとなった。いつまで待っても止む気配はなく、本降りの雨の中、お土産を買いに出る。ウルルンド特産のスルメの特上品(10枚入り35,000₩)とカボチャのゼリー(5,000₩)を買い求めた。土産品を宿に置いても、大雨は降り続く。昨日美味しい刺身を食べたので、昼は中国



筆者のスケッチ ①は独島展望台へのケーブル ②は軍事施設? ③道洞市街





城壁の向こうに姑堂峰



姑堂峰(802m)山頂

料理店のジャージャー麺(@5,500₩)で済ませ港へ行く。

出航は15:00で、雨も止んで順調に19:20浦項に到着、港に停まっていたタクシーは「バスターミナルまで」というと乗車拒否、「バスに乗れ」とのことだ。大通りで流しのタクシーを拾って(7,000₩)、バスターミナルへ。明日の行動を考えて15分ごとに出るバスで老圃まで行く。老圃の案内所で宿を聞くと、「久瑞には宿が沢山ある」というので、地下鉄で4つ先の久瑞駅前オンチョンジョンで宿を探す。Yajaホテル(ダブルベッド2部屋@50000₩)に泊まれた。

◆9月2日 久瑞→温泉場駅→金井山ハイキング→久瑞→チャガルチのホテルへ

7:23発久瑞から地下鉄で温泉場7:30着へ行き、ケーブルのある金剛山公園クムガンサンコンオンまで歩く。公園には日本の蛮行を糾弾する石碑が建てられていた。始発が9時というので、1時間も待った。「植物園を見ようヨ」とS姉は誘うが「体力温存のためNG」と私。

ケーブル(片道5,000₩)を降りて、城壁に沿って北へ車道を、東門からは登山路を金井山へ向かう。この山の城壁は豊臣秀吉の出兵に備えて造られたものだ。カシワやカエデの木が多く、ハギの咲く遊歩道をゆるゆる行く。第2望楼でお茶タイム(9:40~50)東門下の案内所で登山地図を入手(10:30)。城壁沿いの道を歩いて東門で

小休止。

北門まで4.2kmは城壁の下の林間の巻き道を40分歩き、展望のよい尾根道に出た。オミナエシ、ハギ、ワレモコウ、ススキ、ソバナ、カワラナデシコなど秋草の咲く道だ。来し方を振り返れば、花崗岩に松が点景となるミニ六甲という風景が広がっていた。12:06第4望楼に到着。行く手には延々と尾根を這いのぼる城壁が眺められた。がんばって金井山682m天暁峰に登り着く(12:30)。ここから北門まで20分かかる。

S姉は過去に西側の沢から姑堂峰に登ったことがあるとか。当時は階段など全く整備されていなく完全なる岩登りだったので、今回、山頂部に至る最後の岩が出てくるところで「関根さんは大丈夫かな」と心配していたそう。

それが北門の先の岩場も山頂まで木の階段が設置されて、岩場が苦手なわたしでも安心！というか味気なく感じるほどの階段登りで最高峰802mコダンボンの姑堂峰に立てたのだ(13:40)。

城壁はぐるっと17kmもあるそう。釜山市街地やゆったりと流れる洛東江などを俯瞰してのランチタイムで、平日でも結構ハイカーがいる。山頂に山名を刻んだ石碑という景色は、聖人峰と同じパターンだ。

韓国一の大河洛東江ラクトガンの源流は春に登った太白山テベグサンだ。朝鮮半島の背稜山脈＝白頭大幹は北朝鮮から南下して、春に訪れた太白山から南へ延びる

のと西へ小白山から智異山へ続くのと2ルートある。釜山の北にあるここ金井山は、日本海(東海)に沿って南下しているルートの南端に位置している。つまり、私はこれで洛東江の頭としっぽにあたる2つの頂に登らせてもらったことになるのだ。

下山は北門14:33発から禅宗の総本山、1300年前の創建の古刹梵魚寺<sup>ボモサ</sup>へ1時間で下った。東萊温泉入浴は諦めて15:39発バス乗車7分の梵魚寺駅から久瑞に戻る。ホテルに預けておいた荷物をピックアップして、地下鉄1号線でチャガルチへ向かう。最終日だけちゃんとしたホテルをとS姉が予約しておいたホテルノア(ツイン2部屋で1人当たり4300円)は、賑やかな市場の近くで駅にも近い便利なところにあった。汗を流した後は、待望のグルメ…。

ホテルの前にある刺身専門の店で、ヒラメやイカ、その他たらふく食べた。(203,000₩)食後、チャガルチの魚市場を見に行く。立派な太刀魚が並んでいた。市場の中には並べている魚介類をその場で料理して酒を飲ませる店がたくさん入っていて、どの店も客で大賑わいだった。

◆9月3日 宿→バス→釜山・金海空港へ

「地下鉄・リムジンバス、どちらがいい？」とフ

ロントで聞く。「バスが乗り換えもなく便利ですよ」と言われて、6:15のバス(4000₩)で空港へ行く。ホテルの朝食は7時からなので残念ながらパス。空港行きは30分毎にあるので、渋滞さえなければ便利だ。値段は少し高いが、バスは地下鉄と同じ経路を走っているようで街の景色が眺められて楽しめた。

7時過ぎに空港に到着、機内預け搭乗手続きをしてから朝食にする。フライトも順調で午後3時には自宅に帰れた。

今回レートは低かったが、チケット代と山行費で7万円弱…、外国でのハイキングとグルメの旅6日間で、費用もホドホドだろう。年配の私たちには、年金にも優しく手頃な異国の山旅だと思う。山よりも困難なのは、ハングル=言葉の壁なのだが、わたしはすべて人任せで…。韓国の公共交通機関は総じて格安だが、鬱陵島への船賃が往復で1万円以上、これが一番の出費だった。

雨にもふられたが、登山の日には天気に恵まれ、リウマチの身をかかえながらも無事に歩けたのが何よりだ。初めての釜山グルメも堪能、またいきたいな。

さて、次はどこへ？お誘いがくるのが楽しみ！

(\*写真は前回、今回とも上野和夫氏提供)